時事新報

鐵道

鐵道を布設するは政府を煩はす勿れ

日本の資本家い連年の不景氣甚しく爲る事爲す事として損毛ならざるあきに懲り果てゝ疑心暗鬼を生ぜ草の葉の風にそよぐ音にも驚を拔かそばかりあれば天下貨殖の道唯公債證書を庫に藏して一心一向にこれに依賴し他の一切の邪念を拂ふに在りと爲ん商賈工業の如きは初めより無縁れものと諦め居れば態〳〵其損益窮通等の有樣を問ふの用もなく無爲閑散の天地に生息して家運の傾へに長久あらんことを願り居りしに昨年に至り圖らずも整理公債證書發行の命令天降りて年六分以上高利の公債は一切五分低利の公債に引換へらるゝことゝなりしより資本家の驚き一方ならず萬代不易の家産ありと頼を切つたる公債も人間世界は風波に連れて上下動搖せるを免かるざるものありと知りてい子孫長久の計は勿論我生涯間の事さへも中〳〵油斷あるべからず爰に始めて長夜の眠りも少しく覺めんとする心地せられ漸く先づ一歩を進めて全國内外れ形勢を察せるに人間世界決して事無しといふべからず商事にあれ工事に亦れ人の來て道利を拾ふを待つもの枚擧ゐ遑あらず中ゝ就き今の日本國内に於て文明富强と進むる第一の必要具にしてあれに要せる資金の大なるも他に比類なく而して尚は其資本者に對して相當の利潤を與ふべき鐵道事業の在るあり何は兎もあれ先づ此鐵道を布設するあるよりけれとて全國の四隅遠く山河を相隔るも人心の歸する所に變りなく西い九州より東は奥羽地方に至るまで到る處として鐵道論ならざるはなく九州鐵道、播州鉄道、攝河泉鉄道、四日市鉄道、八王子鉄道、両毛鉄道、常陸鉄道の如きい其最なるものあるべき實ゐ盛んなりといふべきなり我輩は各地資本家の斯く自の申込み（原文ハ譯文總頼の幾倍に達し府縣官有志者等奔走往來の有樣は殆んと一場の戰爭を見るが如く然るなり而して又其鐵道を布設するの方法は如何と尋ねるに彼の有志者は擧發鐵道工事等の細項目ゐい甚だ漠然として當て外損に過ぐる所あく動もすれば曰く我々地方の有志者は唯鉄道布設ゐ入用丈けの資金を募集すると擔任するの外資金能ゐ集まれば之を擧げて其筋（多くは鉄道局を指す）へ提出し工事一切の事を依頼するのみと即ち鉄道布設の測量より軌道と布き橋を架し停車場を設け汽車を往來せゝひるの事に至るまで一切の事務を擧ゐて其筋に依賴し株主い唯銘々引請けたる丈けの株金を才覺しさえ之を其工費に供し然る後は年々坐ゐて暮きゐ政府ゐ請願ゐたる年何分の保證利子と請取らんとする鉄道論ゐりんには有志者諸氏は寧ろ初先より鐵道論云ひすして意氣明白ゐ公債應募とゐ授產金請願とか鋼山ゐんゐ自他共ゐ無用の煩勞ゐかるべしと思はる〳〵

政府に保證せゐ先て鐵道を我住居の郡村に布設し我れはこれが株主たるべし汝も亦國民は義務として幾株を負擔すべしなどと事騷がしく奔走したりとて誰れか其志に感服せる者あらんや廣く世人の感服せざるのゐあらず其鐵道布設の計畫に最も緊要ゐる保證金頂戴の如きも必ず政府當局者の爲めゐ拒絶せらるべきや明白ゐらん保證金は失ひ世人には嘲けらゐ結局幾十里の鐵道も永く圖畫の上のものたるに止まりて其實物を見るの期なきに終るが如きい我輩が有志者諸氏の爲めに取らざる所あり然りと雖とも今の日本は鐵道事業い必ずしも政府の保證利子を要せず又此鐵道を布設するに必ずも政府の技術師を煩はすと要せず最初の工事より爾後の營業事務ゐ至るまで一切政府の保護干渉と煩はさずして獨立に業と企て十分に其利を見るゐと亦甚ゐ容易なるべし我輩は日本の資本家有志者等が今日の如く鐵道ゐ熱心し又其布設ゐ急ぎゐゐゐ何故に政府の保護外に立て事と企て一切の技術師と外國より雇ひ來りて政府が念に念を入れて百里の鐵道に三年ゐ費すが如き悠々主義ゐ倣はず唱嗟に事と辨ぜて東京大坂間の鐵道の類ひい一年と出でずして見事成功せしめんとゐるの勇氣なきかを疑ふなり彼の公債證書の代りに保證附の鐵道株券を所持せんとするが如き兒戲一般の殖產論は我輩の悅ばざる所あり

官報

○十八年全國教育景況　●法二十一日の穂

大學校　東京大學は明治十年以來法理醫文の四學部并に豫備門を置き其間多少の沿革あるも漸次之を改良するの計畫たるに過ぎず獨り本年の改正に至りては更に其組織を一變し東京法學校を法學部に合せ尊きて文學部中の政治學科を法學部に移し法政學部と稱し理學部中の機械工學と木工學と鑛冶金學、應用化學を分割して更に工藝學部を置き理學部附屬船學科を工藝學部附屬とし其他更に五學部とあり豫備門は別に之を獨立せしめたり又其教規等の如きは文學部中の和漢文學科を分ちて和文學、漢文學の二科とし其課程を訂正し又法學部附屬別課醫學、製藥學、文學部附屬古典講習科等生徒の募集を止め大學本然の事業を整理更張せんとを圖れり其他校舍を增築し理學部を北擇内に移し大學の規模を擴張せんとを圖れり

教育の數は法政學部に二百十七名、理學部に四十三名、工藝學部に三十名、醫學部に七百二十六名、文學部に百二十九名、製藥學部に三名、計千二百十八名にして前年より五十四名を增す又第に學生の入學者を除去するも尚ほ前年より八十四名を增せり本年は別課を募集の增數あるを見れば亦以て本年中卒業の學生に學位を授與せるこを知るべし

本年中卒業の學生に學位を授與せる數は醫學二百九名、製藥學二十名にして別課法學、古典講習科及大學豫員は本部に總理、副總理、幹事あり百三十餘名あり各學部に長あり其他の職員凡四百五十八圓二十八錢一厘あり

工部大學校は明治四年工部省に工學寮を置き之を工部大學校と改め工作局に屬し其間數校所屬別課醫學、製藥學、文學部附屬古典講習科等生徒の募集を止め大學本然の事業を整理更張せんとを圖れり其他校舍を增築し理學部を北擇内に移し大學の規模を擴張せんとを圖れり

教育の數は法政學部に二百十七名、理學部に四十三名、工藝學部に十九名、醫學部に三十五名、工藝學部に